

自然に学んだ新技術

『四万十川方式』

●四万十川方式とは？

四万十川方式は、水田の水浄化機能を手本に、自然が本来持っている物質循環の自浄機能を活かした新しい水処理システムです。

この方式は化学薬品を使用せず、木炭や枯れ木、石などの自然の素材に若干の加工を施したものを適切に組み合わせ、微生物の力で浄化する方法で、有機性の汚れはもとより、通常の方法では除去困難な窒素、リン、LAS（陰イオン界面活性剤）も削減できます。また、従来の方式に比べて保守管理面でも優れた特徴を持っています。

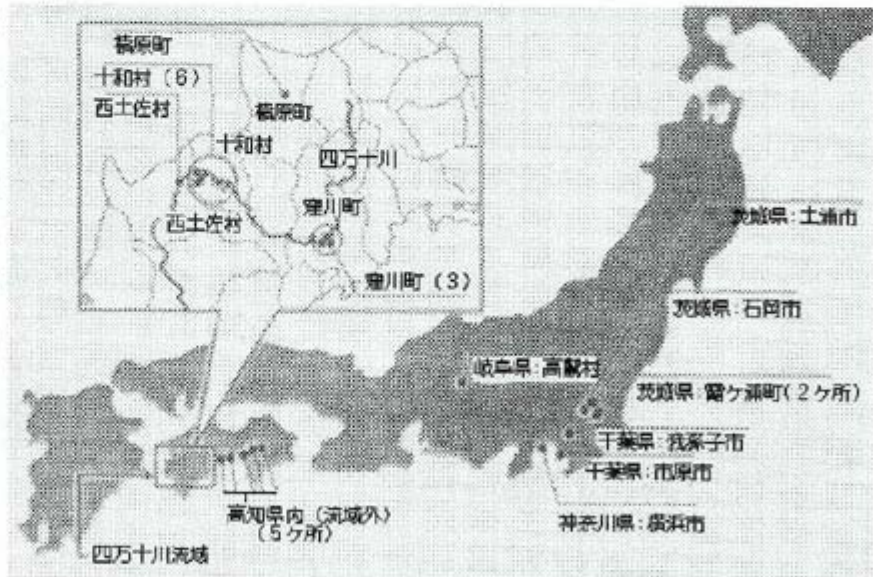
●どのような方法で開発されたのですか？

東京大学大学院の松本聡教授を会長とする産・学・官組織で構成する「高知県自然循環方式水処理技術研究会」で開発・実証したものです。

現在、生活排水の他に畜産排水を対象とした研究を進めています。

●どれだけの実績がありますか？

現在、四万十川方式水処理施設は、流域を始め高知県内に16基、県外に8基、合計24基が設置されています。用途は都市下水路などの汚濁水処理の他、大型の合併処理浄化槽の3次処理（高度処理）施設として設置され、処理水が再利用されているものもあります。



(平成9年度末実績)

【問合せ先】高知県四万十川対策室

次章：四万十大使「儀万智」さんを予定